

●警戒レベルと住民がとるべき行動

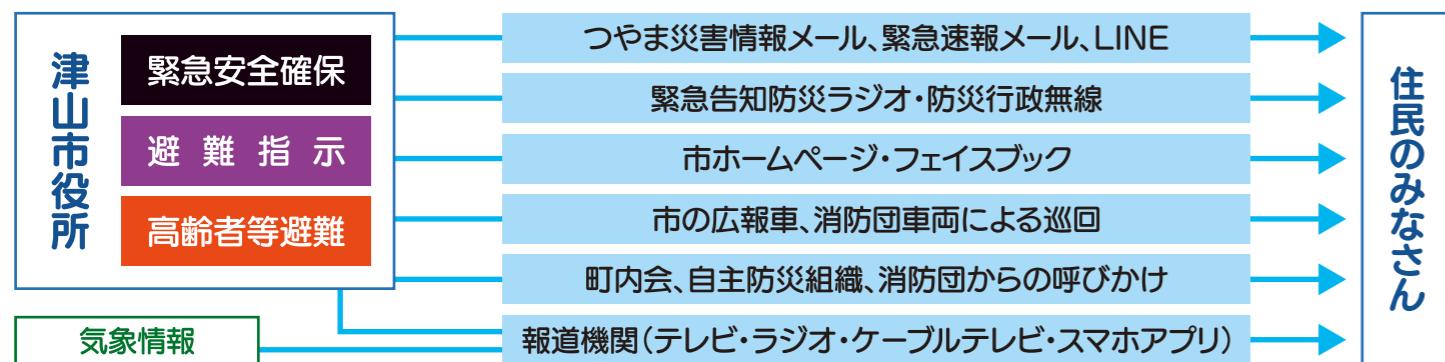
警戒レベルは、防災気象情報や避難情報等に1～5の番号を付すことで、住民がとるべき避難行動を直感的、明確に理解できるようにしたものです。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとりましょう。



気象状況	警 戒 レベル	避難情報等 (市が発令)	住民がとるべき行動	状 况	防災気象情報 (気象庁が発表)
数十年に一度の大雨	5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保! すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	災害発生または切迫	大雨特別警報
警戒レベル4までに必ず避難!					
大雨の数時間～2時間程度前	4	避難指示	危険な場所から全員避難 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	災害発生のおそれ高い	土砂災害警戒情報
大雨の半日～数時間前	3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	災害発生のおそれあり	大雨警報・洪水警報
大雨の数日～約1日前	2		自らの避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報
	1		災害への心構えを高める	今後気象状況悪化のおそれ	早期注意情報

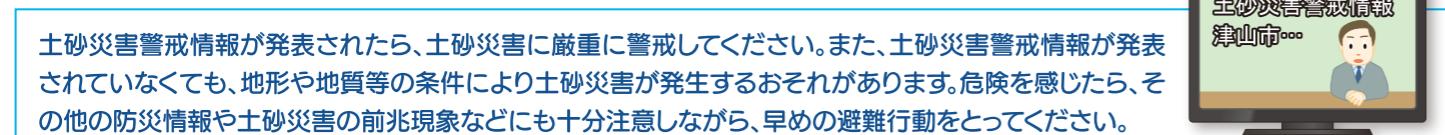
●避難情報等の伝達手段

津山市の避難情報等は、つぎのような手段で伝達しています。災害の発生が予想される状況では、インターネットやスマートフォン・テレビなどで正確な情報を収集してください。また、身の周りの様子にも注意しましょう。



●土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、岡山県と岡山地方気象台が共同で発表する情報で、該当する地域には避難情報を発令する可能性があります。



▼土砂災害の危険度情報は、岡山県がインターネットで公開している「岡山県土砂災害危険度情報」で確認することができます。

岡山県土砂災害危険度情報 検索Q

(PC・携帯・スマホ共通) <http://www.d-keikai.bousai.pref.okayama.jp>

●雪に関する注意報・警報

*気温は岡山地方気象台、津山特別地域気象観測所の値

注意報・警報の種類		津山市での発表の基準（令和5年6月8日現在）	岡山地方気象台
注意報	大 雪	12時間の降雪の深さ 平地10cm、山地25cm	
	なだれ	①積雪の深さ20cm以上あり降雪の深さ30cm以上 ②積雪の深さ50cm以上あり最高気温12℃またはかなりの降雨*	
警 報	大 雪	12時間降雪の深さ 平地25cm、山地45cm	
特別警報			数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

●大雪・寒波への備え



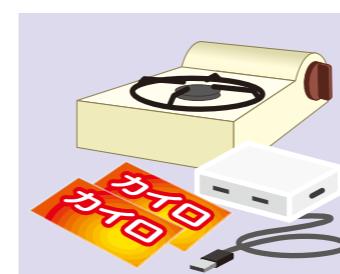
雪下ろし・除雪作業

屋根などの雪下ろしは早めに行いましょう。家族だけで除雪作業ができない場合は、ご近所で協力し合いましょう。



水道管の凍結や破損防止

気温がマイナス4℃になると水道管や蛇口が凍ったり破損することがあります。北向きや風当たりの強いところ、屋外の水栓は必ず防寒対策をしましょう。



停電対策

大雪による倒木や電線への着雪で停電が発生することがあります。使い捨てカイロ、電気を使わない石油ストーブ、調理用のカセットコンロ、モバイルバッテリーがあれば安心です。



食料や飲料水の準備

大雪で外出できない場合に備えて食料や飲料水、常用薬などは数日分を確保しておきましょう。

●雪道での運転の心構え

冬用タイヤの装着など	早朝や夜などは、市街地でも路面が凍結することがあります。冬期は必ず冬用タイヤに履き替えましょう。また必要に応じてタイヤチェーンなども準備しておきましょう。
時間に余裕をもった運転	雪道では、スピードは普段より抑えて、時間に余裕を持った安全運転を心がけましょう。
「急」のつく運転は避ける	急発進、急ブレーキ、急ハンドルは、スリップ事故につながります。
こまめに給油	雪道の走行は燃費が悪くなります。燃料の残量には気を配りましょう。
大雪のときは外出を控える	風雪が強い時などは、視界が真っ白（ホワイトアウト）になり、何も見えない状態になることがあります。不要不急の外出は避けましょう。
大雪での渋滞や立ち往生に注意	大雪時の車の渋滞や立ち往生に備えて、こまめな給油や除雪用スコップ、モバイルバッテリー、簡単な食料、飲料水などを車内に常備しておきましょう。
積雪地域での車中泊や仮眠は危険	エンジンをかけたまま車内で寝ると思わぬ積雪で車中に排気ガスが流れ込み、一酸化炭素中毒になる危険性があります。また、エンジンを切って寝た場合は凍死する危険性もあります。車が立ち往生した場合は、定期的にマフラー付近の除雪をしましょう。
軽油の凍結に注意(寒冷地)	ディーゼル車の燃料(軽油)は、マイナス20℃以下で凍結する可能性があります。寒冷地で宿泊する場合は、現地で寒冷地仕様の軽油を給油しましょう。